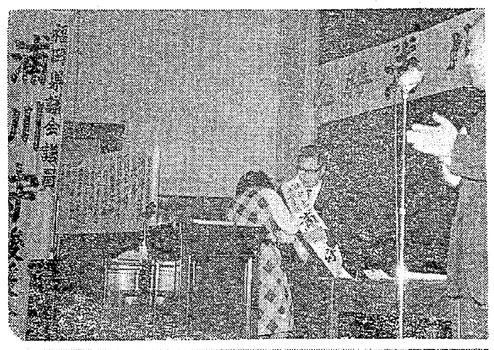
この三井三池

——統一地方選挙を勝利、CO闘争の前



和三十五年七月労仂次官に就任すると直ちに当時の石田労仂大臣とともに中労委を利用し、千二百名クビ切りのあっせん案を出させた張本人である。

同候補は三月二十八日の立会演説会で「なんでも闘いすぎると反動が出てくる。三池でも三池闘争で労仂組合があまり過激にやりすぎたので、反動として新労組ができて、それが増えているのは嘆こばしい」と、明らかに三井鉱山の肩を持っている。

CO患者マツ殺にも関係

また、この候補者は昭和三十七年以来、参議院議員として石炭対策特別委員や社会労仂委員として自民党の石炭政策推進の立役者で

四百人の先生をクビに

また自民党は福岡県には四百人の先生が余っているので整理すべきだといっている。

自民党が「労仂組合にふり回されるな」ということは「自由に労仂者のクビを切れ」ということになる。

福岡県は高校の授業料が現在月六百五十円だが、文部省はこれを八百五十円に上げろといっている。

そして二百円少なくとっている罰として、国が県にやるべき金を二億八千万円もさし引いている。

「中央に直結する政治」の中味はこんなものだ。

▼…去る日、水平坑道（宮浦鉱の）を運行中の人車に、突走してきた空人車が衝突するという事故がありました。

これは、その日の朝の話である。

A　氏　Sさん、今朝坑内で人車事故があったそうですね。

S係員　ホー、そらア知らんばい。

B　氏　目撃から空人車がつっぱしってきて人車と衝突したつた。

S係員　ホー、そらア知らんばい。

C　氏　知らんとあんた、人車のびっちゃげるとつ衝突したもんで、三人のケガ人のあったげなばん。

S係員　そらア、人車の修繕がおうとつたい。

人間の生命の心配より先に、人車の修繕を考えるとは、さすがに三池の転制だ、とホトホト感心させられたものである。さてその翌朝顔をあわせると、開口一番いった——

S係員　昨日衝突していた人車は、たいした破損じゃなかったばい。

（宮浦支部転場十四分会の新聞〝坑外転場新聞〟NO2から）

人の生命より人車が大切？

CO中毒のつぎは水俣病の恐怖

水銀を発見

悪水川として有明な大牟田川に水銀が発見されたという三月二十九日の新聞発表は、三井の〝公害〟に悩まされつづけた大牟田市民に大きな怒りをまきおこした。

発表によると、大牟田川には金属水銀や無機水銀が普通の川にくらべて異常に多く（〇・二六PPM）久留米大学の調査では、この川水の中に金魚を入れれば五分以内で死亡し、水で多量にうすめても一カ月以内にはすべて死ぬという。

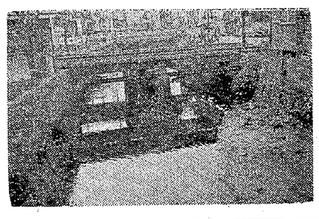
大牟田川にはこのような泥が、すでに多量にたまっている。

CO中毒の何十倍も恐い

九大・山口教授の話（三月二十九日・毎日新聞）では「無機水銀でも多量に人体に蓄積されれば神経系統の障害をおこし、指がふるえたり、歯がぐらつくなどの症状が出、さらにじん臓、肝臓をおかして死亡する危険もある。また他の成分により有機水銀に変化すれば第二、第三の水俣病の悲劇をおこすことも考えられる」ということである。

水俣病も、新日窒水俣工場の排水の中に含まれる無機水銀が魚の体内にたまり有機水銀となり、それをたべた人間の中枢神経を狂わせる病気であった。

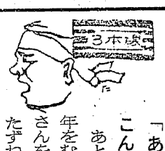
この病気に対して新日窒資本は「先天性梅毒やライ病がわざとしている」と宣伝し、最後まで責任をとろうとしなかった。


きたない大牟田川

「根性ものがたり」（5）

〝生れながらの炭鉱夫〟

三川　中村人治さん



「あしたからこんでヨカ」

あと二カ月で停年をむかえる中村さんを大谷社宅にたずねた。

中村さんは三川鉱の坑内電気工三十年の坑内労仂で髪も白いものがまじりはじめた中村さんは、この半年以上も、かっては自分の後向きにつかっていた係員によって一人配役の島流しをうけている。

「中村と組ませると人間が悪うなる」

係員はこう公言してはばからない。それでも中村さんは少しも変らない。中村さんのウデが坑内三十年のベテランならば、中村さんの労仂運動も職前からのものだからである。

昭和七年、高等小学校を出て四山鉱坑内測量工として入社した中村さんは、先輩にすすめられて当時のプロレタリア文学などに親しんだ。三川町で古本屋を開いていた先輩の家に出入りする若い人たちを、会社と憲兵が目をつけた。

昭和八年の正月早々、出勤した中村さんに係長は「内容はわからんばってん、本社から電話があったので、今日かぎり辞めてくれ」といいわたした。当時三池炭鉱には共愛組合などもあったが、何もしてくれず、翌日からクビだった。

当時中村さんの係員だった栗木幹（三川鉱大爆発を起し千二百名のクビを切った元社長）は、理由をききにいった中村さんに「あんたは思想問題でクビになったので三井関係の会社には入れないョ」といった。事実、それ以後染料や東圧の下請けに行ったが、三日とつづかずクビになった。

若かった中村さんは大牟田をとび出し、筑豊や佐賀、長崎の炭鉱を転々とした。

シベリアで学習

昭和十六年に兵隊にとられ、中国大陸を転戦したが、敗戦と同時にシベリアに收容され、四年間の捕虜生活を送ったが、その間にソビエトの政治局員からくわしい日本労仂運動史の講義などをうけた。この生活の中で、はじめて民主主義とは、社会主義とはどんなものかを知った。

昭和二十四年に復員し、再び三池川鉱に入ったときは、すでに三池炭鉱労仂組合ができていた。

帰ってすぐ、転場の人々におされて中央委員（分会長）になっていらい、現在までずっとつづいている。最初のころ支部の執行委員に二回ほど立候補したが、いずれもわずかの差で落選して以来、もう出る気もしなくなった。

コツコツと転場と地域で分会長をしながら、地味ではあるが、しかし三池労組を支える一番大切な任務をはたしつづけて十八年間をすごしてきた。

三池闘争以後、分会の大半が脱落したときは、さすがの中村さんもガッカリしたが、残った分会員がかえってガッチリとまとまったのはたのもしかった。

運動には停年はない

三十八年の三川鉱大爆発では、十五名の分会員が生き残ったが、そのうち十二名がガス患者になり現在では中村さんの分会は三名である。

いまでは三名がツーカーなので改まって全体会議などといってもフンイキが出ないと笑っている。

新労組員の若い者と、毎日昼休みや仕事のあいまにいろいろと話をするのが、中村さんの転場闘争である。だから会社はたった三人の三池労組員をこわがるのである。

「あと二カ月で停年といっても会社と切れるだけで、運動には停年はないのだから。私でも外部へオルグに行けば、三池サン、三池サンといわれる。三池労組を一枚岩の団結に仕上げるために、もっと努力しなければ……」と中村さんの決意は若々しい。

チヨツトすまして
家族とともに……
（中村さん一家）

（転場日記）

「出勤カード」

高　椋　竜　生

一旬、二旬、三旬と毎月、賃金係窓口で手渡される「出勤カード」をみながら、その内容をいろいろ分析する中で、つぎのような面白い事実を発見した。

その一「島流し配役」の強行

その二「第二組合と組めば賃金が上がる」

その三「同じ作業量で賃金がちがう」

の三つである。

④「島流し配役」について

一月分

スト一日、特休一日、島流し配役二〇日、第二組合との組作業二日。

一月分

特休一日、島流し配役二〇日第二組合との組作業三日。

②「第二組合と組めば賃金が上がる」

一月　四日（一、三三六円）

二月二一日（一、三六四円）

島流し配役のときは平均一、二〇〇円、一日一四〇円ちがう。

③「同じ作業量で賃金がちがう」

一例

・二月二四日

作業量＝一八インチパイプさび落し及びペンキ塗り六本（一、二四〇円）

・一月二五日

作業量＝一八インチパイプさび落し及びペンキ塗り六本（一、〇九〇円）

一と月のうち四日もある実に驚かく不思議なことである。

〇　〇

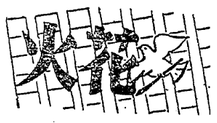
「第二にいては、とげん仕事が上手で真面目にガマ出しても認められんバイ。第二にくっと上ともんからにらまれんな、骨折らんで幾もうけのでくる」

三池争議の就労当時、組合切り崩しの方便として転制がきまり文句のように公然として〇を切っていたことを思い出しては、ひとり反動的権力と結託しての会社の組合ぶっつぶしの体制的合理化に対して、はげしい憤怒を覚え、闘いはいまからと姿勢をきっと構える。

△。

これは本所支部の阿久津さんあてに送られてきた手紙です。オルグの方々、または全国各地で闘っている方々の心のこもったお便りを編集部までお寄せください。ここに紹介したいと思います。

（編集部）



はおいそがしいところへ突流させていただき、そのうえ「みいけ二十年」という大切な本までいただきほんとうにありがとうございました。

参加した私たちは、人間と人間のつきあい、あるいは闘いの必要性ということを再認識させられ、いままでの自分がはずかしくなりました。

あれだけの弾圧をうけ、あれだけの差別をうけながらも、くじけることなく闘っている皆さんの姿こそ、人間本来のものではないかと思いました。

二月二十六日、「みいけ二十年の闘い」という構成詩をみて、感動して涙を流したのは、正直にいってはじめてでした。

久保さんの死、三川鉱爆発のときの友情、あるいは遺族の人たちの叫びは、いまなお忘れ去ることのできないものです。そして、歌われた一曲一曲の労仂歌も涙をよびました。好きだった赤旗の歌がうたわれたとき、私は涙の中に響いました。

「いままでの自分を反省して、いまから闘うのだ。政府・自民党に対して、独占資本に対して、労仂運動を妨げるものどもに対して」と。

また、二十七日におとずれた労災病院で家族の人たちの話を聞き

池だけの問題ではなく、全国の仲間の闘いだ。この問題を、いや三池の火を転場に、そして地域へと広めることが私たちの任務だ〟と思いました。

最後に患者の人たち、家族の人たちと「ガンバロー」をうたったとき、再び涙がこみあげ、心の中で〝闘うのだ、闘うのだ〟と叫んでいました。

私たちは、三池にまなんだことは数えきれないほどあります。これらのことを基礎に、今後は闘っていきます。そしてCO問題を転場で、地域で、人々によびかけます。

今月の十日に、三池報告会があります。また千葉の社青同の集会にも参加して、このCO問題を話すことがきまっています。

これだけのことでは、まだまだ三池の闘いに応えることにはなりませんが、特別立法制定、春闘勝利、統一地方選挙勝利、いや全国のどこかで赤旗があるかぎり、私たちは闘いつづけることを決心しております。

今後とも、よろしくご指導おねがいします。

三月五日

▽

作業量＝一八インチパイプさび落し及びペンキ塗り六本（一、〇九〇円）